

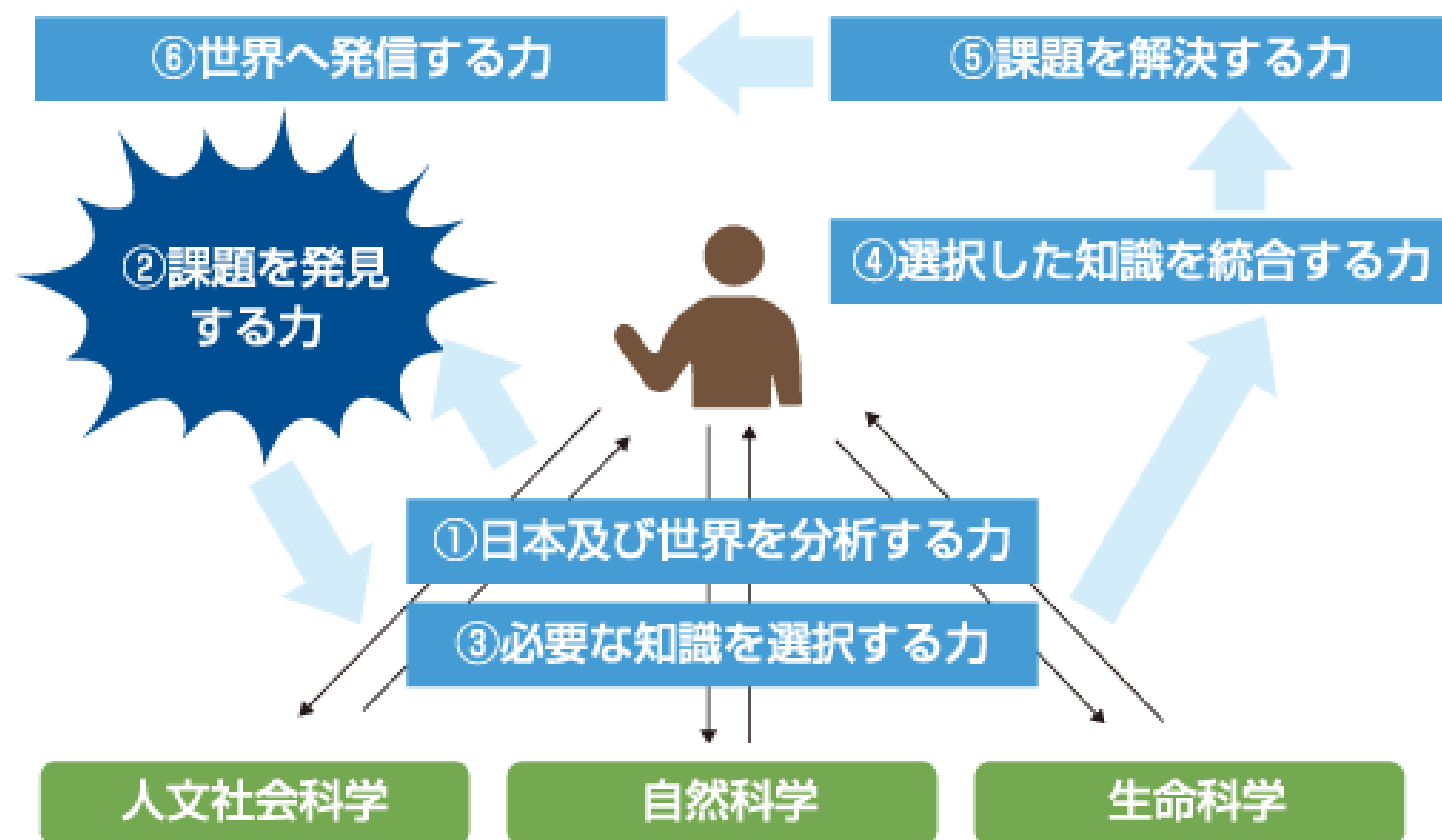
新設小規模学部における学生支援 ～千葉大学国際教養学部の事例から～

千葉大学国際教養学部 塚田かおり

Global + 日本 + 科学

涵養する能力のイメージ

日本及び世界に生じている様々な事象を分析して自ら課題を発見し、必要な知識を選択・統合することにより、日本の視点から課題を解決する力を涵養するとともに、その解決策を世界へ発信する力を育成



卒業研究(必修)

課題の発見

広く見識を
深める

課題の解析

選択した課題に
関わるテーマを
より深く学ぶ

課題の解決と
実践

掲げた課題を
より深く学び
答えを見つける

AI、生命倫理、教育格差、少年兵、難民問題、
地方創生、LGBTQ、生態系保護、エネルギー資源、
宗教建築、パッケージデザイン、スリル構造…

カリキュラム 構造

俯瞰科目

国際教養学入門	グローバルイシュー論
人文社会科学基礎	グローバルイシュー演習
自然科学基礎	現代日本論
生命科学基礎	現代日本課題演習
	総合科学論
	総合科学コミュニケーション演習



スキル形成科目

国際教養CALL英語	アカデミックライティング(日・英)
研究方法論	質的調査法、量的調査法
学術英語	最新情報処理演習
史資料分析	プレゼンテーションメソッド
	学術英語

共通専門科目

- 海外派遣プログラム
- フィールド・スタディ
- 地域PBL型実習
- メジャープロジェクト
- クロス・メジャー・プロジェクトワーク

メジャー
(専攻)
2年次終了時に
選択

グローバルスタディーズ
移住／交通／自然史
アセアン地域論
ヨーロッパ社会論
環境／生態／自然災害
都市住環境論
環境マネジメント制度論
国際／紛争／人道支援
国際組織論
国際人権論

専攻するメジャー以外の
メジャー科目の履修
も必須

現代日本学
技術／産業／デザイン
サービスデザイン
プロモーションデザイン
文化／芸能／スポーツ
クールジャパン論
ポップカルチャー論
地方創生／社会変動
地方創生論
人口減の社会論

総合科学
先端科学／技術／社会
経済政策と科学技術
メディア論
生命／倫理／医療
生命倫理
ユニバーサルデザイン
サイエンス
コミュニケーション
サイエンスカフェ

アクティブ・ラーニング ソーシャル・ラーニング

「主体的に学ぶ」「現場で学ぶ、現場を学ぶ」

フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどをとおして、理論だけでなく実体験を通じた知識の活用と課題解決能力の育成を目指します。

海外留学(必修)

世界で学ぶ、日本を知る

海外での異文化との接触、国際的な学生間の協働等を通して、多様性への理解を深めるほか、日本を見つめ直す機会を持ちます。

文理混合

学問領域をブレンドした学び

地球社会に日々生起する様々な問題は、既存の学問分野(ディシプリン)単独では解決できないため、多様な学問領域を混合(ブレンド)し学びます。

SULA

学修支援スタッフ

2016年より任命が始まった学務系専門職

全学導入に先駆け、2016年度に国際教養学部にて2名配置

入学から卒業までを同一のSULAが一貫してサポート

履修に関すること

履修計画
標準単位未修得者指導
教員との中継ぎ
調査等のサポート

留学に関すること

留学プログラム開発
留学ニーズ調査
留学生課と連携
学外機関との連携

卒業研究サポート

卒業研究テーマ調査
メジャー選択
教員との中継ぎ

キャリア支援

インターンシップ希望調査
就職支援課との連携
学外講師の招聘
キャリアセミナー実施

生活に関すること

学生生活全般
メンタルヘルス相談
学生支援課連携
保護者連携



SULA オフィスアワー

月曜日：9:30-12:00

水曜日：14:30-17:00

金曜日：13:30-17:00

(必修科目のない時間帯)

2年生の約90%が、これまでに何らかの相談に訪れている。
プライバシーが必要な場合に備え、個室も用意。
他学部生からの相談もある。



SULAとして活動してみてもいい

- ・学生の顔と名前を覚える
- ・相談、調査、アンケート等をとおして、それぞれの学生の状況、興味、関心等を把握する
- ・適切な対応、アドバイスをするために、どうするか
(教員でない、カウンセラーでない立場のSULAに相談したい学生もいる)
- ・SULAをサポートする体制の必要性
 - ・業務負担
 - ・業務体制
- ・SULAの任命

現在すでに約180名
(1学年定員90名)
⇒ SULAの配置人数は？

研修？
自己研鑽？
個人の経験？

SULAの業務とは？
雇用体系の異なる教員との
協働 ⇒ 業務時間外対応は？

通常的人事異動？
SULAのキャリアパスは？

今後、必要な取り組み（個人でも取り組めること）

“... The results of this study form the basis of five recommendations for advisors who work with first-year undecided students. First, advisors should be aware of students' initial expectations upon entering the first advising session. This study reveals that high school advising experiences shape new college students' preliminary advising expectations. ...”

“... first year undecided students are transitioning through different levels of development... Therefore, advisors should be educated on various theories of student development such as Perry's intellectual and ethical development, Chickering's identity development, and Schlossberg's transition theories. ... Advisors should participate in continuing education or professional development opportunities regarding college student development. ...”

Ellis, K.C. (2014). Academic Advising Experiences of First-Year Undecided Students: A Qualitative Study. *NACADA Journal* 34(2), 42-50

Great advisors make the University a smaller and more comfortable place by being a real person; something as simple as remembering a student's name can make a huge impact.

Dewey St. Germaine, Academic Advisor, Ethnic Studies, UC Berkeley

<http://advisingmatters.berkeley.edu/great-advisors-reflect-great-advising-0>

(最終アクセス日 : 2017年7月10日)